～日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療後期研修プログラム～

奥三河家庭医療プログラム

［研修期間］ 3年間　［定員］ 1年あたり3名

将来、総合診療医、ジェネラリスト医、開業前に家庭医療専門医をお考えの方は、
是非、この「奥三河家庭医療プログラム」でプライマリ・ケア専門医を目指しましょう！

家庭医療・地域医療の仕組みを学ぶ

研修期間中、東栄町国民健康保険東栄病院において、患者中心のケア、継続的・包括的ケア、保健や介護関連の活動、家族志向・地域志向のケアを実践しながら学べます。

総合診療・領域別の実践を積む

高次医療や、総合診療科、小児科の診療など領域別の専門的な研修は新城市民病院で学べます。

一般外科、産婦人科、救急医学、整形外科、皮膚科、泌尿器科、人工透析、放射線科など幅広い領域の研修内容にも対応しています。

奥三河での3年間はきっとあなたの宝物になるはず

若く、吸収力のある時期に受ける後期研修。これからの地域医療にとって重要なカギとなるプライマリ・ケアへの関心。そして、全国各地に存在するへき地の中から愛知県東三河北部医療圏（奥三河）を選択すること。これらの条件が揃うことできっとあなたにとってかけがいのない経験が得られるはずです。

奥三河地域の住みやすさ、人の温かさを実感でき、地域からは頼られ、感謝されるという、とても居心地良いギブ ＆ テイクの関係を実体験しながら地域医療・家庭医療を学んでください。

そこは医者と患者の
心を繋ぐ病院。

横田 真美子 先生
yokota mamiko

私がこの病院に赴任したのは平成22年4月、名古屋第二赤十字病院での初期研修を終えてのことでした。初めの頃は患者さん・家族への病状説明、急変時の対応、退院後の生活のことなど悩むことも数多くありました。その度に指導医や看護師、その他多くの職種の方にサポートしていただきました。病状説明の特訓をしてもらったり、医療相談室で介護保険について勉強したり…。

ここで学んだことは病気の治療だけでなく、医師としての心構え、家族、地域との関わり方、社会背景や心理面まで考えて診療することの大切さなど数えきれません。

ここでは医師が少ない分、コメディカルが大きな役割を果たしています。自分のような若手医師を、指導医だけでなくみんなで育てよう、協力しようとしてくれる姿勢が嬉しいです。

Profile

2008年3月、自治医科大学卒。
2010年4月から総合内科（現：総合診療科）医として勤務。
2011年4月から「奥三河家庭医療プログラム」で後期研修を実施。

名郷 直樹 先生
nagou naoki

へき地医療をやりたい、あるいは総合医、家庭医になりたい、そういう人は新城市民病院で研修しよう。「自分はどんな医者になったらいいんだろう…」そんなふうに思う人も大歓迎だ。やりがいのある多くの仕事が待っている。月に一度は私が丸1日お邪魔して、総合診療科のカンファレンス、更には、へき地診療所と病院をテレビ会議システムでつないだEBM型抄読会を行っている。この抄読会は、20年近く継続して開催されている、日本で最も歴史のあるEBM型抄読会だ。日常診療における“生”のEBMの実践が体験できる。

ぜひ一緒にいろいろ挑戦しよう。そのためにできる限りのバックアップをします。

Profile

1986年自治医科大学卒、新城市作手診療所に12年間にわたり勤務。へき地医療専門医育成に関わった後、2011年東京都西国分寺で開業。プライマリ・ケア連合学会指導医。

名郷先生から直接指導を受けられる病院

新城市民病院および作手診療所には、家庭医療・地域医療のスペシャリストである名郷直樹先生が定期的に若手医師のフォローアップのため来院され、医学文献の抄読会や、診察補助など熱くサポートしています。

綿引 洋一 院長
watahiki youichi

新城市民病院は、山あり川あり、空気も食べ物もおいしく、田舎生活が楽しめる愛知県東三河北部医療圏にある唯一の公営病院です。車で走れば名古屋市街や浜松市街から約1時間というアクセスの良さ。田舎でありながら田舎過ぎない“調度良さ”がここにあります。「へき地医療、地域医療に興味はあるものの、入院診療や救急などの総合病院での経験も重ねたい。」という方の希望をかなえる“調度良さ”を兼ね備えています。

スムーズな仕事をするために最も大切なこと…、それは人とのつながりです。医師、コメディカル、地域住民など多くの人との間に築かれる人間関係。ここで勤務していると「痒い所に手が届く」そんな“調度良い”関係が築かれるはずです。

大病院ではなかなか感じることのできない“調度良さ”を新城市民病院で感じてみませんか。